

# 機友

発行：東京農工大学機友会

2011年10月7日 第22号

## 目次

巻頭言	機械システム工学専攻、学科の近況報告	笹原 弘之..... (2)
専攻便り	平成23年度就職活動現況報告	田川 泰敬, 遠山 茂樹..... (3)
新任スタッフ紹介	.....	篠原 俊二郎..... (4)
	.....	安藤 泰久..... (5)
	.....	佐藤 桂..... (6)
学生便り	チームエネラボ活動報告	遠藤 克彰..... (6)
	ロボット研究会 RUR 活動報告	宮本 和典..... (7)
	航空研究会活動報告	柳沢 英希..... (7)
	TUAT Formula 活動報告	佐藤 孝諭..... (8)
表彰事業報告	成績優秀者の表彰・優秀講演者の表彰	..... (8)
会費納入のお願い		..... (9)

[会告]

## 機友会代議員

「機友会 2008年度総会」(開催日:2008年11月8日(土))において会則が変更され、2010年度から、総会は代議員会として開かれることになりました。選出された代議員は以下の通りです。

(50音順、敬称略)

浅野 勝則, 今成 昌文, 榎本 一男, 大島 弘一, 岸 秀隆, 北岡 鉄朗, 釘宮 貴徳,  
倉益 幸弘, 小林 丈二, 斎藤 理一, 酒井 伸一郎, 澤田 孚夫, 羽根 冬希, 羽田 智,  
早川 伸哉, 福江 高志, 伏見 恵一, 宮島 臣一, 村上 秀人, 山崎 大生, 山本 隆司,  
吉田 豊明, 吉田 秀久, 吉田 政弘, 依田 義人, 若井 雅宏 (計26名)

## 2011年度機友会総会(代議員会)のご案内

開催日: 2011年11月12日(土) 14:40-15:10

会場: 東京農工大学小金井キャンパス 6号館5階501セミナー室

当日の会場は、昨年度改装なった6号館にて行います。また、当日は、学園祭期間中で、受験生向けの秋のオープンキャンパスも開催されています。総会終了後に研究室見学会、新しくできる新総合会館の見学を行うことも検討しています。

く感じる次第である。

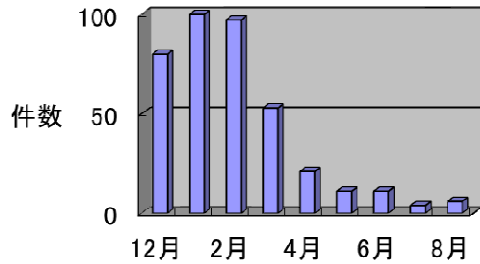


図1 新規求人票受付数の月別推移

### 3) 内々定状況など

8月1日現在の進路状況について述べる。学部

## 【新任紹介】

### 篠原 俊二郎

2010年10月1日付で着任致しました篠原です。現在、本専攻/学科内では宇宙工学部門で広域プラズマ科学、特にプラズマ推進（ロケット）を中心に鋭意研究しております。

私は東京大学理学部物理学科出身で、同大学院博士課程を中退しそのまま物理学教室助手となり、理学博士号（論文博士）を取得致しました。当時は高温プラズマ物理・核融合研究を行い、その後九州大学大学院総合理工学研究科（その後組織替え）には助教授として赴任し、分野を少し変え基礎から応用プラズマ物理研究を致しました。東京工業大学と九州大学にしかない独立大学院であったため、大学院生の指導のみが義務であり恵まれた環境でした。しかし所謂「足を持たない」（学部学生なし）ため、良い学生の獲得には苦労させられましたが、成果を学会で発表し論文執筆に励みながら段々と育っていくのを見る楽しみもありました。

10年少し前に、あるプラズマの学会で本専攻/学科におられました故都木恭一郎先生（当時は宇宙科学研究所所属）と久しぶりにお会いし、プラズマ推進の共同研究を始めました。高校が同期のため、強い信頼関係を基に、ご一緒に楽しく新研究ができました。一昨年の5月に同先生がお亡くなりになられた時は、突然の喪失感で呆然と致しましたが、その後私が本学にお世話になる事になりましたのは誠に奇縁と考えております。昨年は私事ですが、ヘリコン高密度プラズマ科学研究で文部科学大臣表彰科学技術賞を戴きまし

た。もし都木先生がおられましたら、ご一緒に受賞できたのではないかと思います残念至極です。今後は同先生との共同研究を科学研究費の基盤研究（S）の補助を受け、更に継続・発展させていきたい所存です。幸いにも、研究分担者の西田先生もお隣の部屋におられますので、ご協力・ご議論して戴きながら、「はやぶさ」を超える次世代の長寿命・高効率のプラズマロケットの基礎研究開発を行いたいと思っております。研究分担者には「はやぶさ」を担当されました宇宙科学研究所の先生も入られていますので心強いです。

（大学院工学府機械システム工学専攻 教授）

着任してまだ1年経っておりませんが、感じた点を書かせて戴きます。1) まず先生方が非常にフレンドリーであり、スタッフの数が多いのにも拘わらず事務室のサポートも良く、運営が円滑に民主的に行われている事に感心致しました。2) 学生は「噂通り」素直で何事にもきっちりしているのにも驚きました。貴重な良い点ではありますが、たくまさが更に加われば、鬼に金棒と思います。3) 改修されました6号館に入れて戴き、感謝しております。8トンにも及ぶ装置類の移動とインフラ整備は本当に大変でしたが、綺麗な新環境で装置を使うと気分も良く、新配属されました学生共々張り切って行きたいと思っております。

「転石苔を生ぜず」は良い意味と悪い意味があるそ



うですが、(良い意味で) 海外も含め色々な所で経験した事を生かして、研究と教育、及び内外の諸活動に専念し、本専攻/学科の発展に精一杯貢献する所存でございます。「機械」は「物理」と遠いようでいて近い関係(基礎からの理解が重要です。現在は講義で力学関係もしております)でもあります。また学問は種々の領域のハイブリッドからも進展する事もありますので、機械出身の先生が多い中で、他の視点からお役に立てればと思っております。

研究室のホームページ(下記 URL)を、専攻内にある研究室紹介と共に立ち上げました。

<http://www.tuat.ac.jp/~sinohara/>

## 【新任紹介】

### 安藤 泰久

2010年11月に、着任致しました安藤と申します。よろしくお願ひ致します。

簡単に略歴を紹介します。出身は神奈川県横浜市です。1987年に東京工業大学大学院修士課程を修了し、日本電気株式会社に入社しました。1989年に同社を退社し、通商産業省工業技術院機械技術研究所に就職しました。組織改編などを経て、独立行政法人産業技術総合研究所 先進製造プロセス研究部門トライボロジー研究グループ長の時に、同所を退職し本学に赴任しました。学位(博士号)は、1997年に東京工業大学から授与されました。

大学(学部4年)、大学院の時には、それぞれ工作機械の動剛性、真空中の摩耗に関する研究を行っていました。機械技術研究所から産業技術総合研究所にかけては、トライボロジー及びマイクロマシン(MEMS: micro electromechanical systems)の研究に従事していました。機械技術研究所に就職して、当初はマイクロマシン関連のプロジェクトに携わっていたことから、マイクロマシンのような微小荷重で接触する表面間の摩擦の研究を始めました。トライボロジーには、多様なパラメータが関係しており、それが現象を理解することを困難にしています。しかし、接触面積や荷重を小さくすることで、特定のパラメータについて調べることが容易になります。そのような「マイクロトライボロジー」が、現在の私

それらに書いてありますように、プラズマは多くの分野で貢献し、爆発的発展を遂げています。半導体、環境、エネルギー関連などから医療、バイオまで、意外な所でも縁の下の力持ちです。機械関連では溶接、表面処理などがあります。モットーとしております「プラズマ制御による地上から宇宙までの展開研究」を、内外の様々な方々にも興味を持って戴ければ幸いです。

最後になりましたが、今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。諸先生をはじめ皆様方とのご議論も楽しみにしております。

(大学院工学府機械システム工学専攻 教授)

の主要な研究分野になっていきます。また、マイクロトライボロジーの研究を進めていく上で、測定装置を小型化すると、固有振動数が高くなり、正確な測定が可能になります。そこで、トライボロジー計測を高度化するために MEMS の開発も行うようになりました。本学においては、これまでの研究を発展させていくとともに、ミクロスケールの視点で得られた知見をマクロなトライボロジーの問題に展開することを目指します。

前職でも、大学や大学院からの研修生を受け入れたり、連携大学院の教員として大学院生の指導を行ったりしていました。しかし、学生と向き合いながら研究室を運営していくのは初めての経験で、まだまだ手探りの状態です。また、授業や会議あるいは入試関係の仕事にも慣れていません。そのような状況ですが、これから研究室の4名の学生と一緒に、さらには機械システム工学専攻をはじめとした本学の諸先輩方の助けを借りながら、本専攻の発展に貢献できるように、私自身の研究の発展と人材の育成に努めて参りたいと存じます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

(大学院工学府機械システム工学専攻 教授)

